

【学校教育目標】

「ともに学び ともに築く」

～個性を伸ばし、創造性と豊かな人間性を育てる～

◆ 2025年度の重点目標 ◆

- 安全・安心な居場所としての学校づくり
- 学ぶこと・教えることが楽しいと思える授業づくり
(学びに向かう人間性の育成)
- 生徒主体の活動を通して自己肯定感を育む集団づくり
- 地域・保護者と連携を深め、ともに育てる学校づくり
(社会に開かれた教育課程の実現)

◆ 久木中学校がめざすもの ◆

〈生徒像〉

- ・自ら考え、学び、行動できる生徒
- ・認め合い、励まし合う生徒
- ・粘り強く、努力し続ける生徒

〈学校像〉

- ・安心して通える学校
- ・信頼できる学校
- ・自信につなげる学校

〈生徒のモデルとなる教職員集団〉

- 自ら考え、学び、行動できる職員集団
- ・互いのよさを認め、励まし合う教職員
- ・ともに学ぶ教職員
- ・進んで声をかけ、寄り添い、支えあう教職員
- ・協働できる教職員
- ・自らが楽しんで授業をする姿を通して、学ぶ楽しさを伝える教職員

◆ 重点目標達成のための3つの柱 ◆

- 支援教育・安全教育の充実
- 学習指導の充実
- 生徒主体の活動と地域連携の充実

【学校経営方針】

信条

一人ひとりの幸せ

～職員の幸せが、生徒の幸せとなり、保護者、地域の幸せにつながる～

大切にしたいこと

- 風通しのよい職員室～節度を守り、思いやりを持ち、大切な事を伝え合える
- 自ら考え、学び、行動できる職員集団
- 生徒が主語になる学校づくり～生徒を大切にできる教職員

【具体的取り組み】

I. 学習指導の充実

① 授業改善の推進

学ぶこと、教えることが楽しいと思える授業づくりを目指すために

各教科において「学びのプラン」を用いて生徒が見通しをもち、自ら学びに向かう人間性を育成する。また、単元指導と評価を繰り返し、積み重ねることで、より分かりやすい指導と評価の一体化を目指していく

『目指す生徒像具現化を目指した多様な道德教育』をテーマに研究を推進し、教科が目指す生徒像を明確にし、道德教育の研究に取り組むことで、全ての教育活動に『目指す生徒像』を意識したカリキュラムマネジメントの視点を取り入れていく。

② 健康体力づくりの推進

健康の維持、体力の増進に向け、発達段階に応じた指導内容を基に、心と身体健康について教科横断的に学習を深める機会を充実させる。

③ 体験活動の推進

様々な体験活動を通して、生徒たちが人と社会等とのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高められるよう、豊かな人間性・社会性を育成する。

④ 今日的課題への取り組み

「個別最適な学び」「協働的な学び」を効率的に行うため、ICT 端末の有効活用と研修を充実させる。

2. 支援教育・安全教育の充実

①学校安全の推進

学校施設の定期的な点検を実施し、防災・防犯教育を計画的に実施する。

②支援環境の充実

教育相談コーディネーターを中心として、援助ニーズのある生徒のアセスメントを行い、生徒支援委員会を通じて組織的な対応を行う。保護者・関係機関と共通理解を図り「支援シート」（特別支援については個別の指導計画も）を作成し、義務教育9年間を見通した支援体制を整える。

③安心できる居場所づくりと絆づくりの推進

様々な教育活動を通して、よりよい人間関係づくり・集団づくりをめざす。
生徒のニーズに応じて、支援教室(HOPE)の効果的な活用を推進する。
スクールカウンセラーなどと連携し効果的な支援に努める。

④いじめ対策の推進

人権を尊重し、互いの存在や多様性を認め合うことのできる援助的・親和的な学級づくりからいじめの未然防止に取り組む。

⑤不登校対策・問題行動対策の推進

全ての生徒が、安全・安心に学校生活を送ることができるよう学級・学年・学校づくりを進め、問題行動や不登校の未然防止に取り組む。問題行動の早期発見・早期対応のために、生徒の小さな変化に気を配り、その情報を確実に教職員間にて共有し、迅速に対応する。

⑥幼・保・小及び小・中の連携推進

個に応じた支援を充実させ安心して中学校生活が送れるよう、小学校から中学校間で、必要な情報の共有と連携を行う。

小・中の教育相談コーディネーターが中心となり、支援シートを活用し、保護者

や援助者相互の共通理解を図りながら継続した支援を行う。

3. 学校組織の充実

①学級・学年・学校経営の充実

学校の教育活動全般にわたって、教職員が一丸となり、組織としての指導・支援に取り組むとともに、授業づくりや集団づくりについて教職員の協働を推進する。

② 研究・研修の充実

生徒の実態や地域の特性に基づき、創意ある教育活動を展開するために、実践的な教育研究に取り組む。人材育成の観点から、意図的・計画的・継続的なOJTを進める。

③ 信頼に基づいた指導の推進

生徒との日常的な対話を通じて信頼関係を深め、一人一人を大切にしたい思いやりのある指導を行う。

学校ホームページやおたより、説明会、懇談会などを通じて、情報発信を行い、透明性のある学校教育を目指す。

教師自らが明るい挨拶をする、温かい言葉を使う、思いやりのある行動をすることで、教職員間での信頼関係づくりを推進する。

④ 働き方改革の推進

校務支援システムや and-T, グーグルクロームなどを効果的に活用し、校務処理の一層の迅速化、効率化を推進する。会議、行事の精選や授業時数の管理などを通して、教職員が生徒一人ひとりと向き合う時間や授業準備の時間を確保できるような仕組みをつくる。

⑤地域・保護者との連携の充実

返子西部地区コミュニティスクールを始めるにあたり、地域連携部を中心に、地域・保護者と学校が協働して学校運営に取り組める仕組みづくりを行い、地域と協力して生徒が学び、育つ環境づくりを行う。